

クリーンヒルこもろからお知らせ

図 生活環境課 ごみ減量推進係

燃やすごみが増え続けています

小諸市の燃やすごみは、平成 26 年度から **6 年連続で増加**。増加分は 6 年間で約 1,700 トンに上ります。この間、小諸市の人口は約 1,400 人減少していますが、燃やすごみは 1.3 倍にも増え、憂慮すべき事態となっています。クリーンヒルこもろ（焼却施設、リサイクル施設）では、平成 28 年 1 月に稼動してから毎年度、当初計画を大きく上回る量の燃やすごみを受け入れています。このため、施設のごみピット（ごみをため置くところ）は、満杯の状態が続いています。

このまま燃やすごみの増加が続くと、適正な処理を続けることができなくなり、**施設での受け入れ中止も検討しなければならない状況**です。また、毎年のように全国で大規模な自然災害が発生しているなか、小諸市においてもクリーンヒルこもろで災害廃棄物を受け入れる事態がいつ発生するか分かりません。しかしながら、現在のクリーンヒルこもろは、そのような非常事態に備えられる状態ではありません。

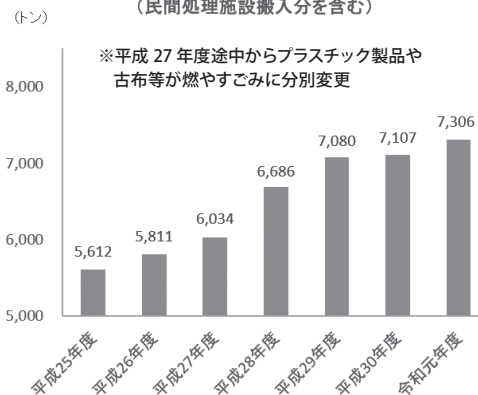
今すぐ、ごみを減らす行動を

クリーンヒルこもろに搬入される燃やすごみの量を当初計画まで減量するには、令和元年度実績で年間 978 トンの減量が必要です。そのためには、市民の皆さんが **1 人 1 日あたり約 64 グラム** のごみを減らさなければなりません。たとえば、たまご（L サイズ）1 個分の重さです。

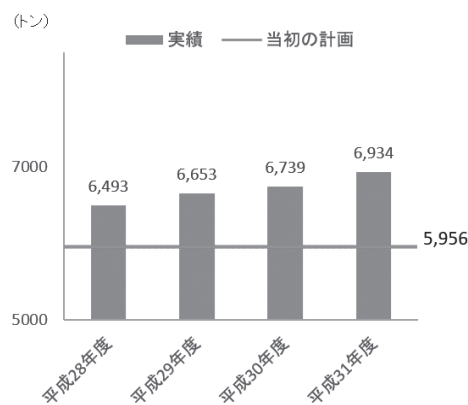
まず、「**本当に必要なもの**」かどうか、**買う前によく考えましょう**。そして、**ごみを捨てる前にもう一度、「まだ使えるか」「ほかに必要とされている人がいるか」「資源になるか」と考えてみてください**。ごみ減量のため、少しでも「できること」から始めましょう。

危機的状況が続いています

小諸市の燃やすごみの推移
（民間処理施設搬入分を含む）



クリーンヒルこもろにおける
燃やすごみ搬入量の実績



NTT 東日本と災害時における相互協力協定を締結

小諸市と NTT 東日本は、災害の発生に伴う大規模通信障害発生時等に市民生活の早期安定を図るため、各々がもつ資源を効果的に投入する協定を締結しました。これにより、**大規模災害で通信インフラに被害が及んだ場合において、早期の通信障害復旧**が期待できます。

【協定の具体的内容】

- ・災害復旧に必要な道路通行のための、倒木処理、道路除雪等道路啓開処置
- ・防災、減災を目的とした事前伐採
- ・小諸市が管理する公園等の敷地、施設の提供
- ・小諸市への通信設備の提供

